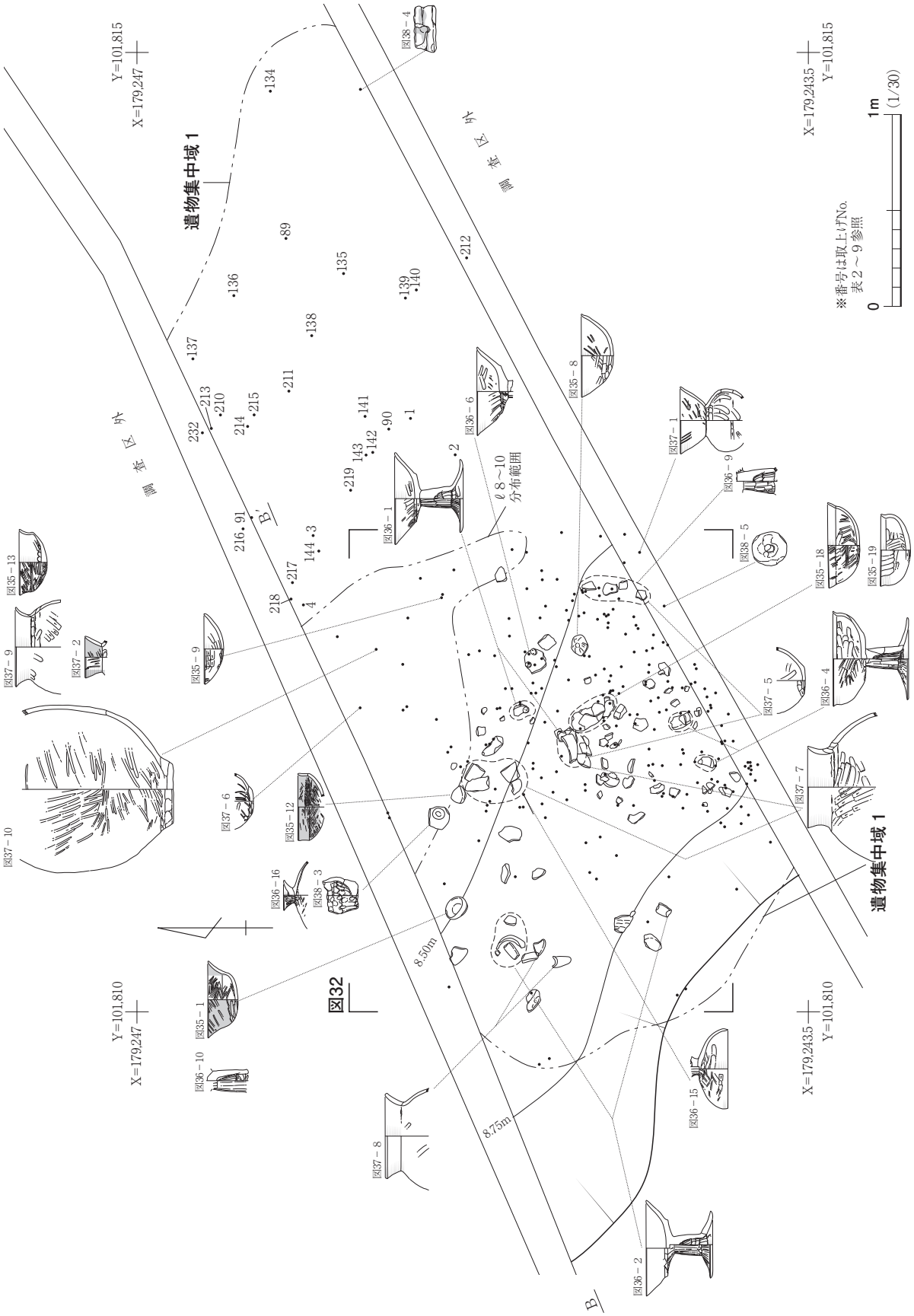

図31　４号流路跡遺物集中域１（１）

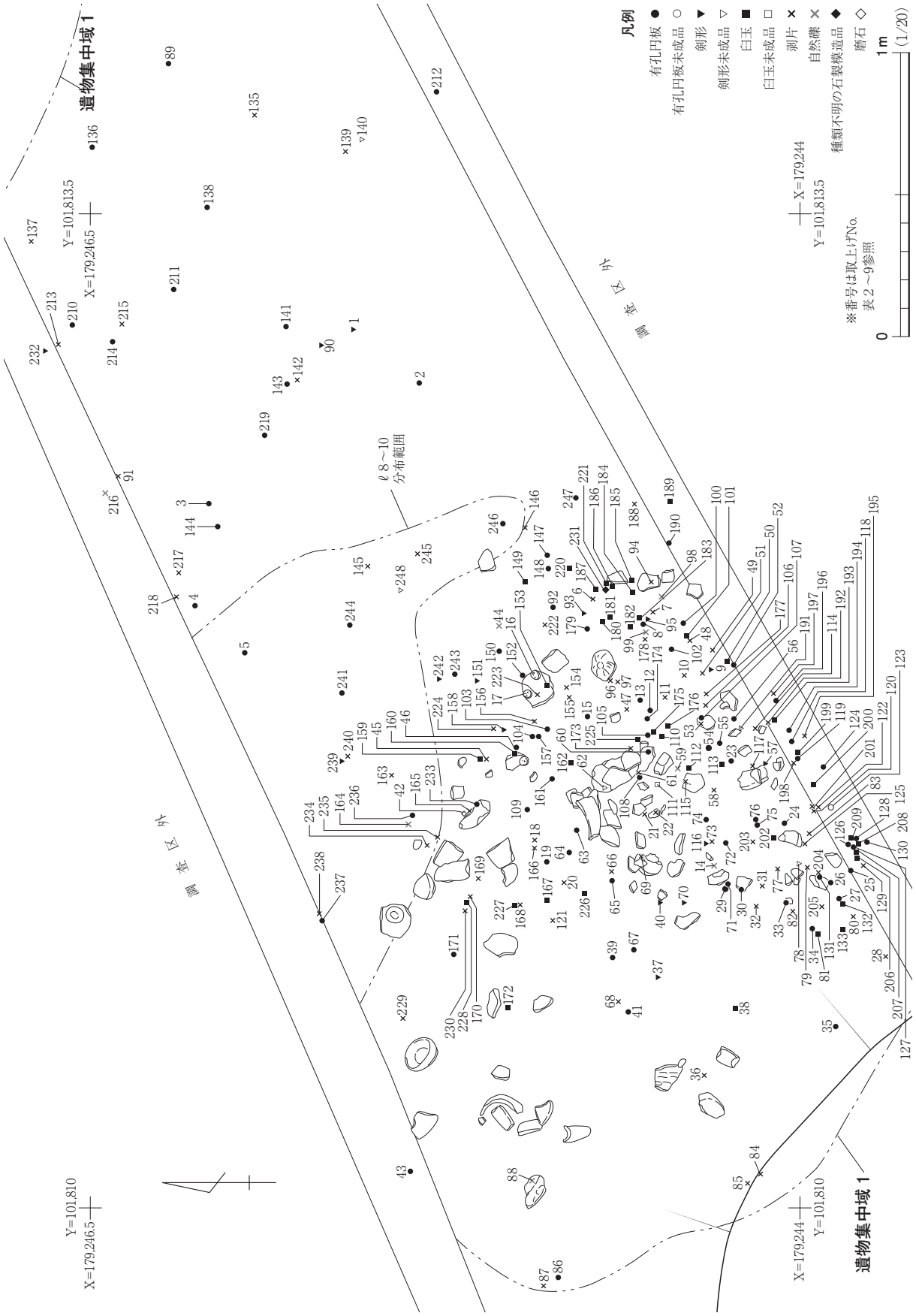

図32　4号流路跡遺物集中域1（2）

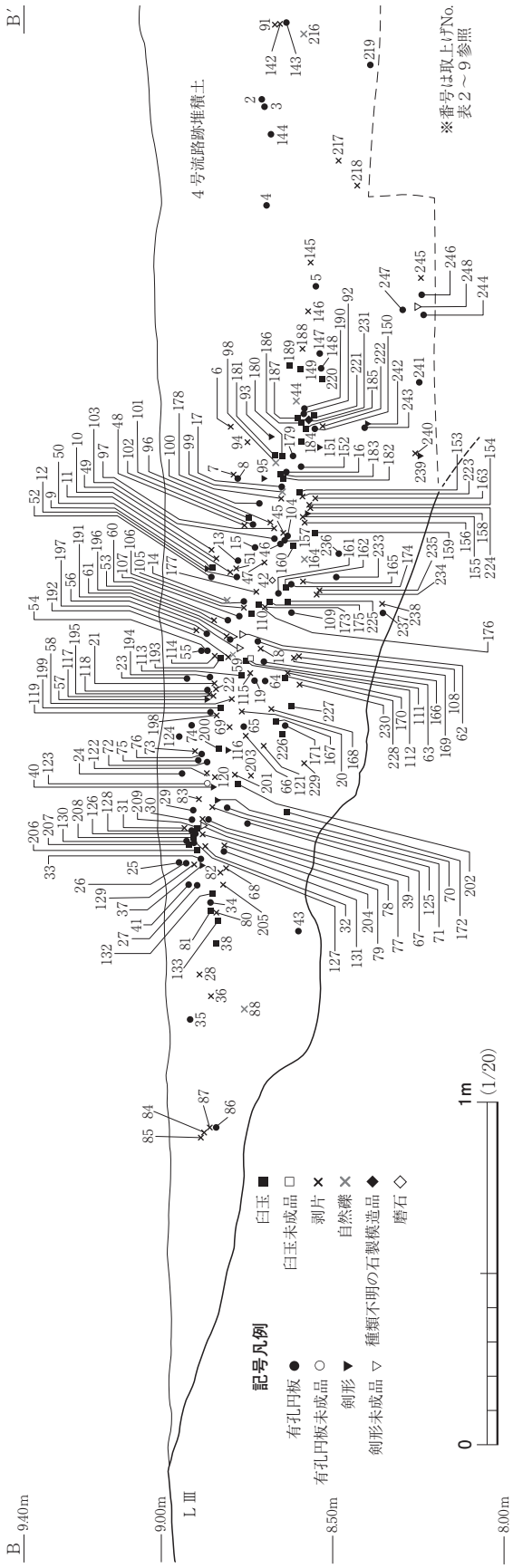

図33　４号流路跡遺物集中域１（３）

は丸底で、体部中ほどから強く外反する。体部内面の中ほどには明瞭な稜が認められる。内外面には赤彩が施されている。１～４は体部から口縁部の外面にヘラミガキ、底部にヘラケズリが施されている。内面にはヘラミガキが施されている。１の底部外面の赤彩は斑状となることから、経年使用により剥落したものとみられる。２～４の赤彩は体部外面に水平に施され、塗分けている。２の底部外面には、楕円形の黒斑が観察される。５は赤彩の遺存状況が悪く、剥落が著しい。７は体部中ほどから強く外反する。内外面にはヨコナデが施される。調整が粗く、ヨコナデで消しきれないユビオサエの凹みが顕著に認められる。８は深身の丸底で、口縁部に向けて湾曲しながら立ち上がる。口縁部の内外面にはヨコナデが施されている。体部下半から底部の外面は、粗いヘラケズリが施されている。内面には、まばらなヘラミガキが施されている。ほかの土師器と比較し、胎土中に粒径の大きい長石や石英、海綿骨針が多く混和されている。９は浅身の丸底で、口縁部へ向けて内湾しながら立ち上がる。外面にはヘラケズリ、内面にはヨコナデ、ユビナデが施されている。10は丸底で、湾曲しながら立ち上がり、口縁部は直立する。内外面には、まばらなヘラミガキが施されている。底部外面には木葉痕が観察され、周縁には粘土が補填されている。11は小型で、ヨコナデやユビナデなどが施されている。12～14は丸底で、体部中ほどで稜を持ち、口縁部に向かい直立あるいは外反しながら立ち上がる。12は内外面に丁寧なヘラミガキが施されている。赤彩は内外面の底部を除き施されている。13は外面にヨコナデの後、ヘラミガキが施されている。内面には、体部から口縁部までヨコナデ、底部

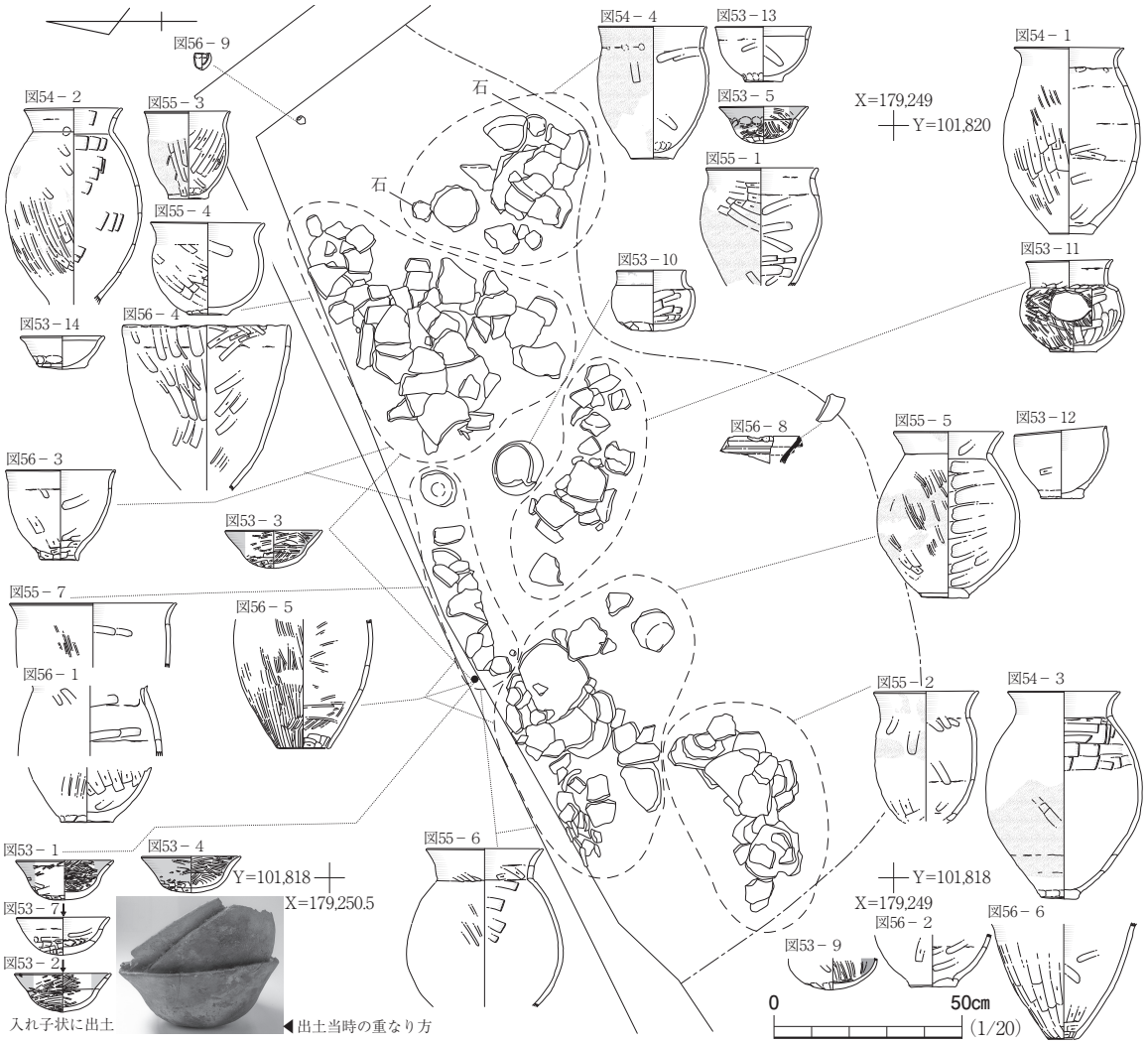

図34　４号流路跡遺物集中域２

は螺旋状のユビオサエが施されている。14は底部外面にヘラケズリの後、ヘラミガキが施されている。内面にはヨコナデの後、ヘラミガキが施されている。赤彩は外面が稜より上位に施されており、塗分けとみられる。内面は底部付近にも赤彩が斑状に付着していることから、当初は全面に塗られていたものが、経年使用により剥落したとみられる。15～18は体部は湾曲しながら立ち上がり、口縁部は外傾あるいは直立する。口縁部付近の内外面はヨコナデが施されている。15・16は平底、18～21は丸底となる。15・16・18～21の体部内面の上部に稜が認められる。15は底部の外面がわずかにくぼむ。外面はヘラケズリの後にヘラミガキが、内面はヘラミガキが施されている。内外面には、黒斑が観察される。16は体部から底部の外面には、ヘラケズリが施されている。17は、内外面にヘラミガキが施されている。18は内外面にヘラミガキが、底部の外面にはヘラケズリが施されている。19は内外面にユビナデが、底部の内外面にヘラケズリが施されている。20は口縁部の外面に、連続したヘラ状工具の痕跡が認められる。21の底部外面にはヘラケズリが施されている。

図36－１～12は土師器の高杯である。１～３は脚部が中空で細長く、裾部は強く屈曲している。杯部は直線的に外傾し、下端には段が認められる。１・２の裾部は緩やかな「八」の字状に開き、

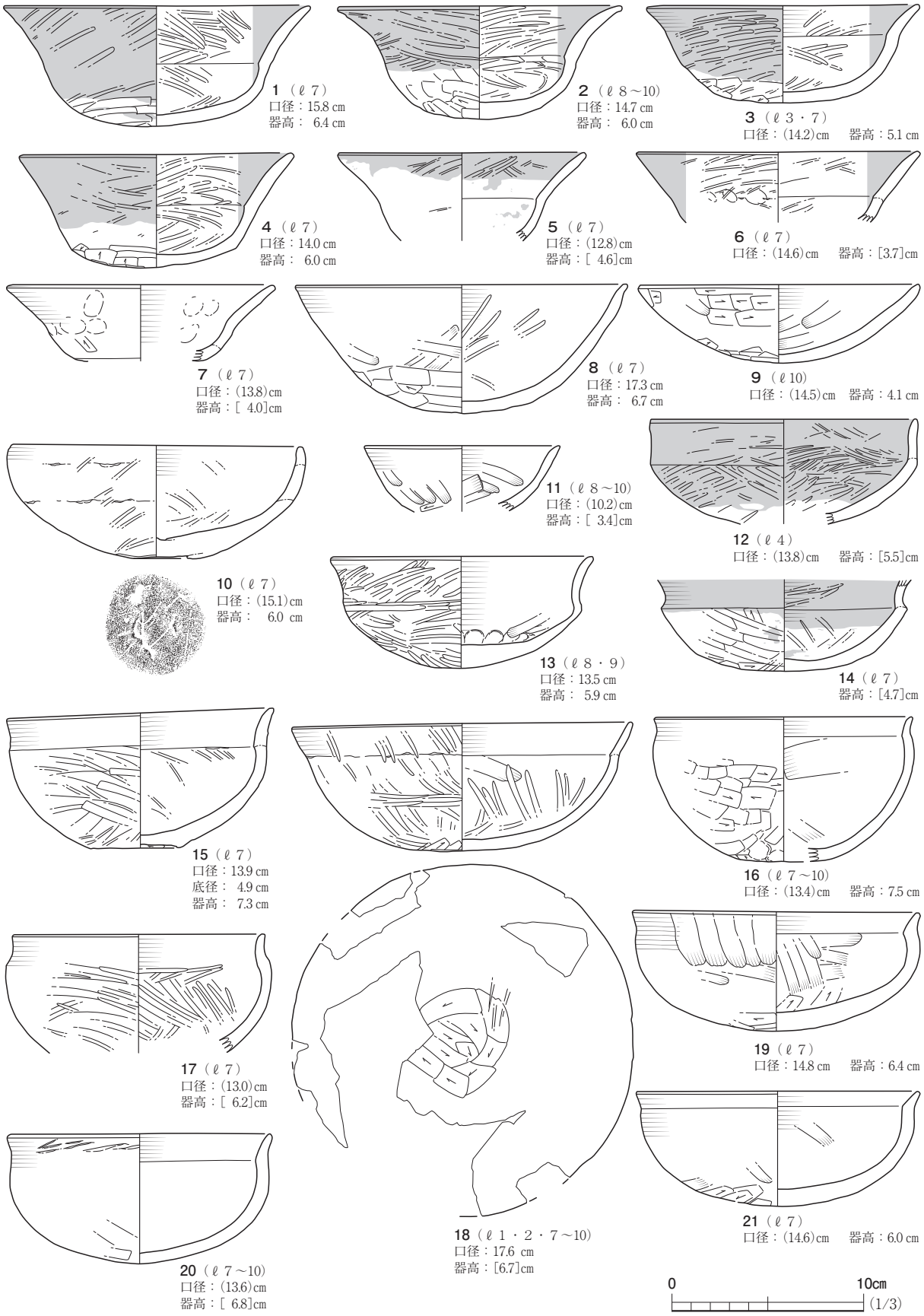

図35　４号流路跡遺物集中域１出土遺物（１）

接地面が広い。脚部や裾部の外面は縦位のヘラミガキ、内面はユビオサエやユビナデ、裾部の末端にはヨコナデが施されている。１は杯部の内外面にヨコナデ、体部外面にはヘラミガキやヘラケズリが施されている。２は杯部外面の下端にヘラケズリが施されている。３は脚部の外面に縦位のヘラケズリ、内面にはユビナデやユビオサエが施されている。外面には斑状の黒斑が観察される。４は脚部が中空で細長く、脚部と裾部の屈曲は強く、杯部は内湾しながら立ち上がり、口縁端部で外反している。口縁部付近の内面には稜が認められる。脚部の外面にはヘラケズリ、内面には縦位の連続したユビナデが、螺旋状に認められる（写真58参照）。裾部の外面は、ヘラケズリの後、ユビナデが施されている。裾部の末端にはヨコナデが施されている。杯部の体部外面はヘラミガキ、内面にはユビナデが施されている。杯部と脚部は、ユビナデやユビオサエにより接合し、ヘラケズリで調整している。５・６は杯部付近のみ遺存している。いずれも直線的に立ち上がり、６は口縁端部で外反している。５は内外面にヘラミガキ、杯部下端の外面にはヘラケズリが施されている。６は外面にヘラケズリ、内面にユビナデや、ヘラミガキが施されている。杯部下端の外面には、ハケ状工具の先端があたったような痕跡が認められる。７は杯部の下半から下は欠失しているが、器形の類例から高杯と判断した。口縁部は肥厚し、強く外反している。口縁部の内外面はヨコナデ、体部の外面はヘラケズリやヘラミガキ、内面はユビナデの後ヘラミガキが施されている。８は脚部から裾部で、「八」の字状に開いている。脚部の外面はヘラケズリの後ヘラミガキが、内面はユビナデやヘラナデが施されている。９・10は脚部のみ遺存しており、中空で細長い。外面には縦位のヘラケズリ、内面はユビナデが施されている。11・12は裾部で、端部で外反している。外面はヘラミガキ、内面はユビナデが施されている。

図36－13～16は土師器の蓋とした。蓋部は内湾し、下端で垂直となる。つまみは厚手で、上端に向かい短く外反している。外面にはヘラケズリやヘラミガキが施されている。内面のつまみとの接合部には、ユビナデやユビオサエが顕著に認められる。13の蓋部内面は、接合する際の調整によりくぼんでいる。16の蓋部の内面には、薄い粘土板が貼付けられている。

図37－１～６は土師器の壺である。１は球形の体部で、頸部から口縁部に向かい直線的に外傾する。体部の外面はヘラケズリ、口縁部はヨコナデの後、ヘラミガキが施されている。体部の内面はユビナデ、頸部から口縁部はユビナデの後、ヘラミガキが施されている。他の土師器と比較し胎土には、粒径１～２㎜程の長石や石英が多く混和されている。２・３は頸部から口縁部が遺存しており、直線的に外傾している。２は外面がヨコナデの後、ヘラミガキ、内面はヘラミガキが施されている。赤彩は内外面に認められる。内面は頸部と体部の境より上位にのみ認められ、塗分けと判断した。３は外面にヘラミガキ、内面にユビナデが施されている。４～６は体部から底部のみ遺存している。４は球形で、体部の外面にヘラミガキ、底部にはヘラケズリが施されている。内面にユビナデが施されている。赤彩は外面の体部に認められ、底部は斑状となる。５・６は平底で、湾曲しながら立ち上がる。底部付近の外面には、ヘラケズリやヘラミガキが施されている。

図37－７～９は土師器の甕である。７は体部が内湾しながら立ち上がり、頸部から口縁部は垂

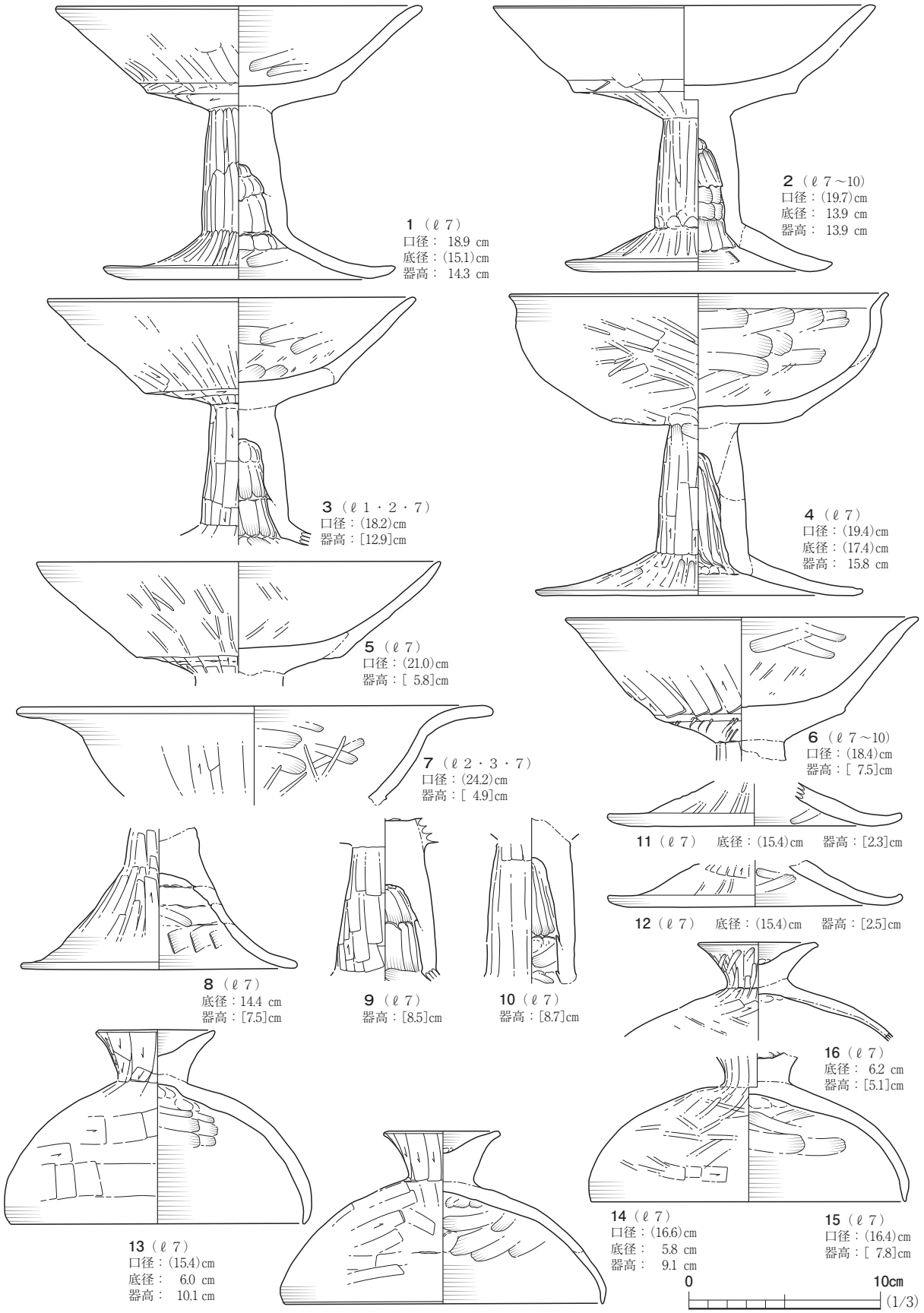

図36　４号流路跡遺物集中域１出土遺物（２）

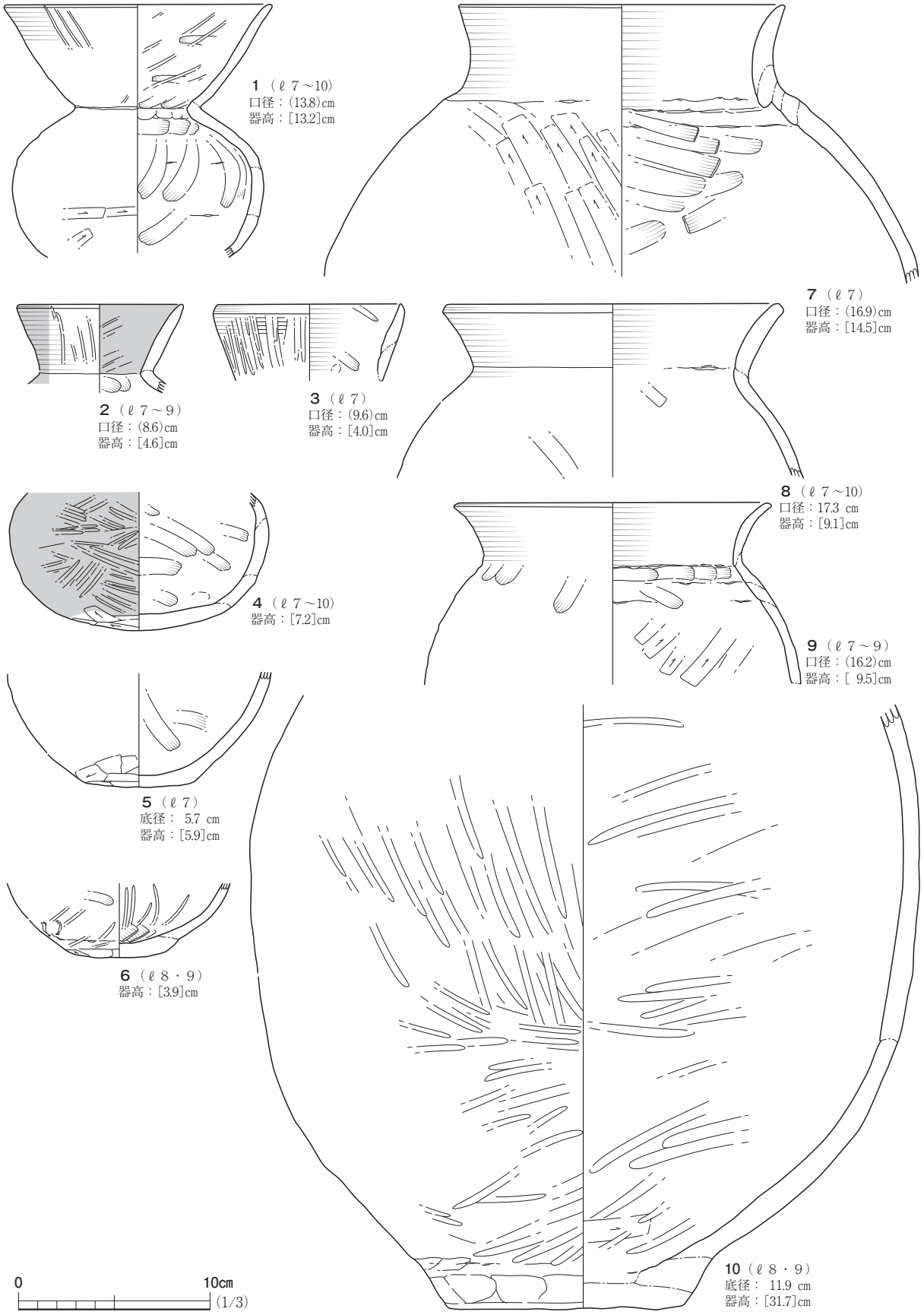

図37　4号流路跡遺物集中域1出土遺物（3）

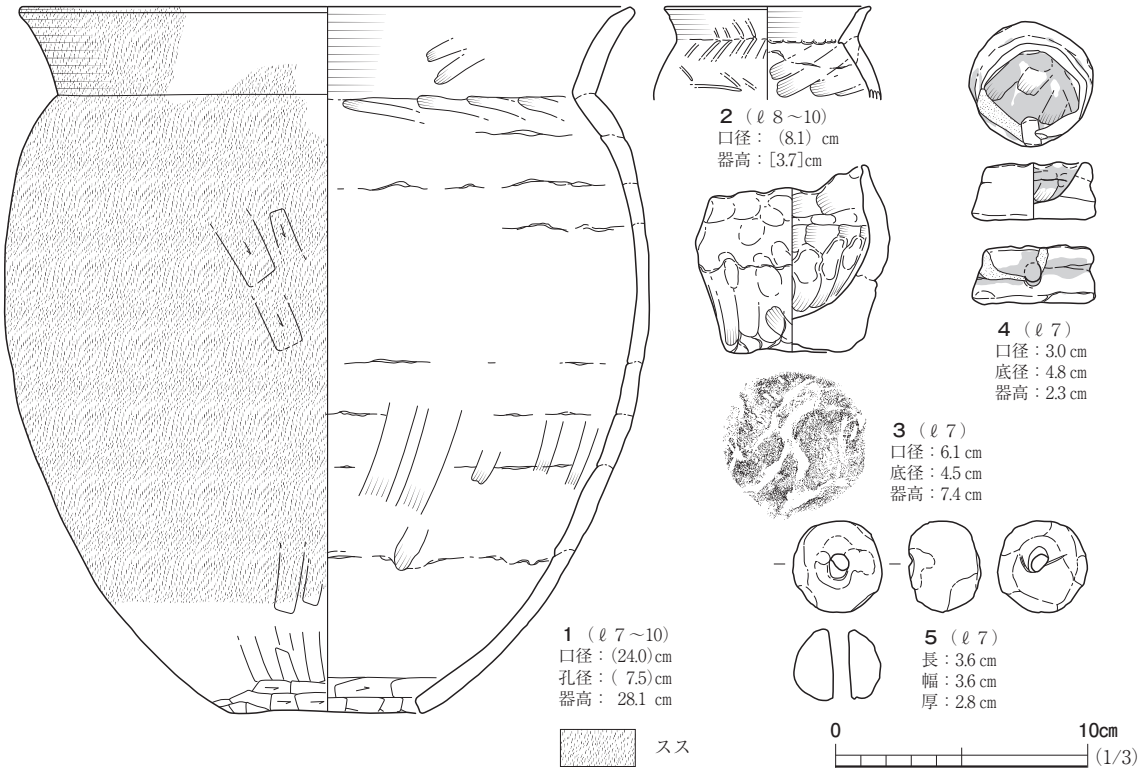

図38　４号流路跡遺物集中域１出土遺物（４）

直となり、口縁端部でわずかに外傾している。口縁部の内外面はヨコナデ、体部は外面がヘラケズリ、内面はユビナデやヘラナデが施されている。８・９は体部が内湾し、頸部から口縁部に向かい外傾している。頸部から口縁部の内外面はヨコナデが施されている。８は体部の内外面にヘラケズリが施されている。９は体部の外面にユビナデ、内面にユビナデやヘラケズリが施されている。

図37－10は土師器の大型の壺あるいは甕とみられる。底部は平底で、体部は湾曲し楕円形となる。体部の内外面にはヘラミガキが、底部の外面にはヘラケズリが施されている。

図38－１は土師器の甑である。体部は楕円形で、頸部から口縁部では外傾する。体部の外面にはヘラケズリが施されている。底部付近の内外面には連続した横位のヘラケズリが施されている。外面の下端から4.5cmより上位にはススが付着し、一部は被熱により斑状に剥離している。カマドではなく、炉で使用されたものとみられる。

図38－２はミニチュア土器の甕である。頸部から口縁部にかけて外傾し、端部は外側に向け摘み出される。口縁部の内外面はヨコナデ、体部の外面はヘラミガキ、内面はユビナデが施されている。

図38－３は手づくね土器とした。複数の粘土塊や粘土紐を接合し、ユビナデやユビオサエにより整形している。底部から体部にかけての内面は、螺旋状のユビナデが施されている。

図38－４は用途不明の土製品とした。円形の粘土板に粘土紐を輪積みし、ユビナデやユビオサエにより整形している。体部には穿孔が１箇所認められる。内外面の一部には、赤彩が施されている。

図38－５は土製の丸玉である。平面形は円形、側面は楕円形となる。両側から穿孔している。

有孔円板　図39～43は石製模造品の有孔円板である。図39－１～20、図40－１～25は正円形を

図39　４号流路跡遺物集中域１出土遺物（５）

基調としている。穿孔は左右の両側縁に近接して２箇所に認められ、側面に面を持つ。

図39－１の上端は不整で、表面の上側縁には研磨により形成された稜が認められる。側縁に向けてわずかに薄くなり、断面形がレンズ形となる。２は複数方向からの短い研磨が認められる。表面右側の穿孔は、周縁がくぼんでいる。３の表面の上端には、複数の工具痕が認められる。４は表面の中央に横方向を基調とする稜があり、そこから下側縁に向かい薄くなる。裏面の中央は研磨が希薄となる。５は整った円形で、側面の稜が部分的に確認できる。７は表面の右側縁に、縦方向の直線的な稜が認められる。研磨は単位が細く、密に施されている。８の表面左側の穿孔は、上端が幅広となる。９は裏面の中央が強い研磨により、楕円形にくぼむ。10の表裏面には、幅広で深い